

黒牧新聞

黒牧20号誕生

土佐湾沖の出番近し

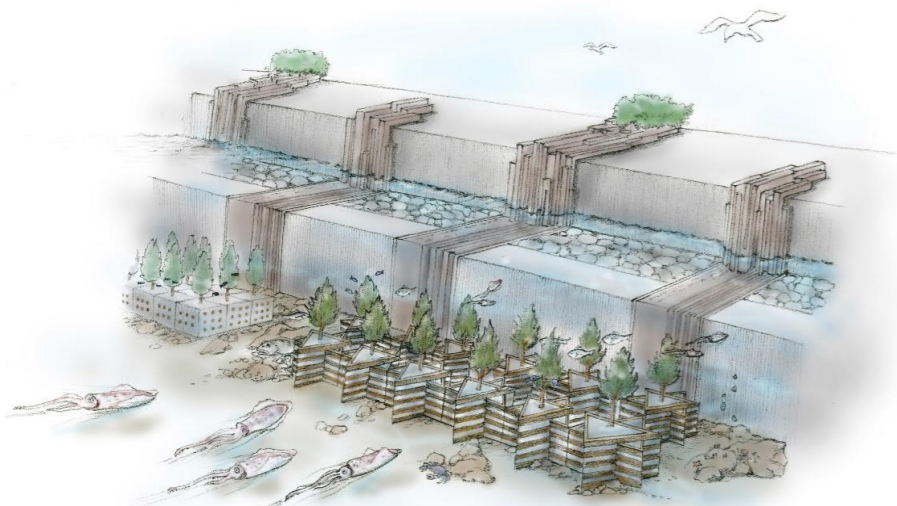
黒牧(20号)の浮体が生まれました。現在鉄鋼関係者によって、育てられています。数か月後、海に出て魚を集める活躍をします。



岡山県の工場で誕生した黒牧20号は、長旅を経て土佐湾沖に到着する

自然再生型漁港・港湾

漁港や港湾施設が、藻場や、魚類の産卵場機能を持つことは、公共にとって全体最適ではないでしょうか？



木材とコンクリートの組合せ、陸上のタブーが海ではメリットになる

SDGs:公益的価値の還元

炭素固定に加え、森林・海藻藻場とも公益的価値があるとされます。しかし、それだけでは、生業として持続させるべく、手ぬぐい、関係する人々に還元する仕組み、しよ段の確立が求められるのではないかと

浮魚礁の深さ測定

黒牧20号の設置場所の水深は、710mで設計されています。この日、測量船で半径1km範囲の水深を測定。



設計通りの水深が数値で表示される

今回の発行所



壁新聞の主な配布先

- ・漁協
- ・町内会
- ・保育園
- ・小学校
- ・中学校
- ・高校
- ・自治体
- ・森林組合
- ・観光協会
- ・大学
- ・みなとオアシス



天然のブナ林保全による水源涵養



小規模間伐による土砂流出防止



しかし、山では暮らせない現状



体験の充実感に笑顔の子供



子供の目の前でに海域に設置



失われた藻場と産卵場を作り